



## NICUとGCUがオープンしました

新生児集中治療部 杉田 完爾

本院では、新生児集中治療室（NICU）6床、新生児治療回復室（GCU）12床を新たに開設し、本年4月1日にオープンしました。

NICUは、極めの細かい全身管理を必要とする低出生体重児（未熟児、極小未熟児、超未熟児）や先天性心臓疾患、その他の疾患のために専門的な全身管理を必要とする新生児・乳児を収容する小児ユニットで、重症の病的新生児・乳児に対して濃厚な看護体制（3対1看護）のもとで集中治療を提供しています。

GCUはNICUでの集中治療を終えた後に退院までを過ごす治療回復室で、当院の通常看護をより充実させた看護体制（6対1看護）のもとで準集中治療を提供しています。

NICU／GCUにおける集中治療／準集中治療に当たっている小児科医師は、東田耕輔准教授を筆頭とする新生児・未熟児医療の経験に秀でた総勢8名で、昼夜を問わず献身的な治療にあたっています。

県内では山梨県立中央病院の総合周産期母子医療センターと国立病院機構甲府病院に設置されているNICU／GCUが機能的に稼働していますが、本院にもNICU／GCU機能が付加されたことで、県内の周産期医療は増々充実したものになると期待されます。



鈴木看護部長、島田病院長、杉田部長

## 特別メニュー食をリニューアルしました!!

今春、各調理師のレベルアップおよび栄養管理部のさらなる発展および患者さんの療養生活のさらなる改善を図るため、調理師の受け持ち担当を変更しました。

それに伴い、特別メニュー食（通称：セレブ食）の食事内容も大幅に見直し、担当調理師の専門性（和食・洋食・中華など）を最大限に生かしたメニューとなりました。

また、今までのモチーフである「おいしい、安全、きれいな盛り付け」に加え「身体にやさしく、心にも栄養を！」を新たに掲げ、皆様に喜んでいただける食事を提供していきます。

ご家庭では味わえない、ひと技加えたプロの味をご堪能ください。



ミニ懐石風



焼き魚御膳

## 臨床検査技師長就任挨拶

小池 亨



この度、平成23年4月1日付で検査部臨床検査技師長に就任しました小池 亨です。

検査部は、臨床検査分野における責任を果たすため、正確なデータを迅速に提供することに努めています。臨床検査技師とは、病気の診断・治療・検診に関する情報を提供するために、医師の指示のもとで、血液、尿、細胞など様々な材料を用いた検体検査および心電図やエコーに代表される生理検査をすることができ、その検査を行うことが国家資格によって保証された専門職種です。

当検査部では、生化学・免疫血清・血液学的検査の大部分を診察前検査として実施し、心電図検査、超音波検査、細菌検査、遺伝子検査、輸血検査など多様な業務を対象としています。また、外来採血室では、看護師と協働して安全かつ迅速な採血業務を心がけています。さらに、医学の進歩に伴い、様々な診療支援のニーズに応えるためには、最新の分析技術・知識の習得は不可欠であり、検査部の理念である「信頼性の高い臨床検査の提供と医療貢献」をモットーに、職員一同日々研鑽を積んでいます。

当検査部では、生化学・免疫血清・血液学的検査の大部分を診察前検査として実施し、心電図検査、超音波検査、細菌検査、遺伝子検査、輸血検査など多様な業務を対象としています。また、外来採血室では、看護師と協働して安全かつ迅速な採血業務を心がけています。さらに、医学の進歩に伴い、様々な診療支援のニーズに応えるためには、最新の分析技術・知識の習得は不可欠であり、検査部の理念である「信頼性の高い臨床検査の提供と医療貢献」をモットーに、職員一同日々研鑽を積んでいます。

## 副看護部長就任挨拶

望月 恵美 佐藤 あけみ



本年4月1日付で、看護部副看護部長に就任しました業務担当望月恵美（左）と総務担当佐藤あけみ（右）です。

副看護部長は、業務担当副部長2名、総務担当副部長1名、教育担当副部長1名で構成され、看護職員の確保からはじまり、看護職員の教育・管理を行っています。

副看護部長に就任し、2ヶ月が経とうとしています。3月31日までの病棟師長としての仕事と大きく違うことは、仕事をしている場所に患者さんがいないことです。これまでの看護の歩みの中で、これほどまでに患者さんや病棟を愛しく思ったことはありません。今まで多くの患者さんからたくさんの教をいただいたことに感謝をし、その学びをこれからの私たちの仕事に活かしていきたいと考えています。病院の理念である「一人ひとりが満足できる病院」を目指し、医療チームの中心は患者さんであることを念頭に、患者さんや患者さんのご家族の方が一日も早く元気になれるよう、ともに考え、目標を持って安心して生活できる看護を提供していきたいと考えています。

## 病棟師長就任挨拶

6階東病棟 島田 昌子



6階東病棟は、耳鼻科31床・第1内科19床で稼働率は90%前後の病棟です。看護師のほとんどが経験年数8年以下ですが、患者さんの安全を守りながら、明るく丁寧に看護をしています。患者さんが辛い時には安心できるまで付き添い、患者さんやご家族のことを考え、医師とも熱く語り合っています。

私が師長になってから痛感していることは、師長として未熟な私を、皆で支えてくれているということです。スタッフの頑張っている姿や明るい笑顔、困った時の上司のサポートまたはご家族からの「頑張ってるね」という言葉等たくさんあります。改めて看護師になったこと、本院で働いていることを誇りに思い、私も一人でも多くの人の支えになれるように頑張っていきたいと思っています。

5階東病棟 三平 まゆみ



5階東病棟は、整形外科46床と眼科4床の病棟です。科の特徴から日常生活に不自由をきたしている患者さんが多く入院しています。患者さんが入院される時、どんな目的で入院してきたのか話を聞いています。「床に足をつけて歩きたい」「痛みを取って旅行が出来るようになりたい」「畑仕事をして夫を手伝いたい」など患者さんの目標は様々です。シャワーに入ること、歩くこと、薬を飲むのも一つ一つが目標に向けたリハビリとなります。日常生活の援助そのものが退院に向けた指導となる病棟です。スタッフが患者さんと目標を共有し、目標が達成出来るように支援していきたいと思っています。

日常生活の援助そのものが退院に向けた指導となる病棟です。スタッフが患者さんと目標を共有し、目標が達成出来るように支援していきたいと思っています。

2階西病棟 山本 秀美



2階西病棟は、脳外科33床・救急部4床・神経内科2床・第1内科2床・共通6床、計47床の病棟です。小児から高齢者まで幅広い年齢の患者さんが入院され、疾患も急性期から慢性期、内科・外科を問わず緊急入院も多い病棟です。患者層を考えながら環境を配慮し、一人でも多くの患者さんが受け入れられるよう病床管理を行っていくことが私に与えられた課題だと考えています。

他の病棟に比べ多くの診療科を受け入れているため、看護師の知識・技術も要求されます。業務が煩雑となりやすい環境の中、患者さん・スタッフの安全を守り病院の理念である『一人ひとりが満足できる病院』を念頭に置いた病棟を目指し努力していきたいと考えています。

3階西病棟 蓮沼 知津子



3階西病棟は、小児科28床の病棟で0歳から20歳前後までの子供たちが入院しています。年齢も様々ですが、検査入院から年単位での治療入院など治療経過も様々です。成長発達が著しいこの時期の入院は、子供やご家族にとっても非日常的なことで、いろいろな心配や不安を抱え入院してきます。いつもの「両親の温かい胸に抱かれている」「お散歩に行く」「幼稚園・学校に通う」「友達と遊ぶ」など子どもの意味ある大切な日常が入院により妨げられてしまいます。医療を受ける子供たちの成長・発達が妨げられないような環境を整え、成長発達段階にある子供の特徴やご家族の気持ちを理解し、安心して入院生活を送れるように、医師をはじめ病棟スタッフ一同、力を合わせ努力していきたいと思っています。

医療を受ける子供たちの成長・発達が妨げられないような環境を整え、成長発達段階にある子供の特徴やご家族の気持ちを理解し、安心して入院生活を送れるように、医師をはじめ病棟スタッフ一同、力を合わせ努力していきたいと思っています。